のアルバム

▼10月5日　市役所

健やかな成長を願って

オレンジリボンキャンペーン児童虐待防止キャラバン隊が市役所を訪問し、児童虐待防止に向けたメッセージとシンボルマークのオレンジリボンを野洲第三保育園４・５歳児の子どもたちやドウタクくんと一緒に伝達しました。

メッセージ伝達式の後、市長が「オレンジリボンに込められたメッセージをしっかり受け止め、本市の児童虐待防止に向けた取り組みを進めていく」ことを決意表明しました。

プロバレリーナを目指して！

青少年のためのバレエコンクール「ザ・バレコン大阪大会（7月21日～24日開催）」に出場し、女子ジュニアＢ部門第１位に輝いた大谷春乃さん（冨波乙）、第２位の濱田萌さん（行畑）、Ａ部門ファイナリストに入選した川端美有さん（永原）が大会結果の報告に市役所を訪問しました。

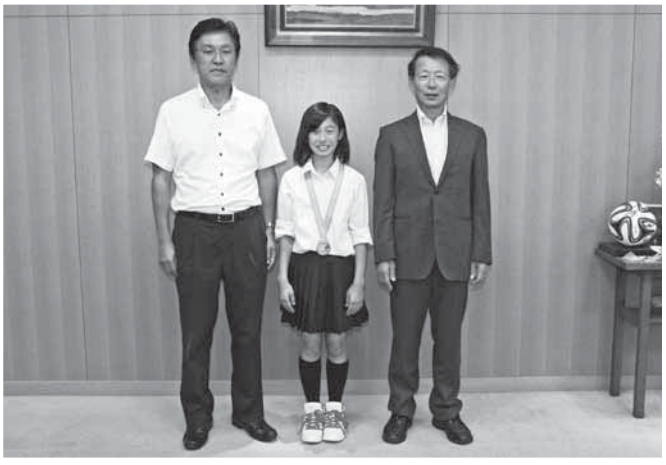
コンクールでは、練習の成果を発揮し、満足のいく演技ができた。今後は、もっと自分の表現力を豊かにし、更に上位を目指したい。将来は、バレエの道に進みたいとそれぞれ抱負などを誓いました。

▼9月28日　市役所

左から濱田さん、山仲市長、大谷さん、川端さん

▼9月15日　市役所

見事！！ 全国1位



8月20日～22日に開催された第46回全国中学校体操競技選手権大会の跳馬種目で全国１位に輝いた小野真奈さん（野洲北中）が市役所を訪問しました。

小野さんは、月曜日以外は毎日練習し、学問と両立しています。連覇に向け意気込みを語ってくれました。

跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆかの総合４種目でも全国11位の結果でした。

歴史の小窓
ー学芸員のメッセージー

134

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

竹工芸の技と美

竹工芸は、竹を素材にした工芸技術です。日本では古くから竹籠が作られ、縄文時代の遺跡から竹で編んだ器が出土しています。竹籠はくらしのなかで身近に用いられ、作る技術が今日まで伝承されてきました。

杉田静山（すぎたじょうざん）さんは、日本を代表する竹工芸作家の一人として知られ、野洲市在住の滋賀県無形文化財保持者です。若い頃は前衛的な芸術作品にも取り組んでいましたが、「日展」で三年連続入選を果たした後、伝統的な技法を重んじる「日本伝統工芸展」へ発表の舞台を移します。籠作りの「技」を磨きたいとの想いが強かったためでした。伝統工芸は、日本人の生活に深く根ざしたもので、機能と装飾を兼ね備えた、技と美が調和した文化といえるでしょう。

静山さんの妻・昭子さんは、夫の勧めで生け花を習い始めました。昭子さんは、「お花を見つけたら、まず、どの花籠に活けたら一番引き立つかと考える」といいます。そして、「籠」と「花」がお互いに引き立てあうように活けることを心がけているそうです。静山さんは、花を活けると「籠の見え方がぐっと変わっておもしろい」といい、杉田夫妻のあゆみを静かに語るように、籠と花が寄り添ってやさしい表情をみせています。

開催中の企画展では、籠に活けられた花々の写真を展示しています。美しい花籠の世界を作品とともにご鑑賞ください。（博物館学芸員　行俊勉）

■秋期企画展「竹工芸の技と美―杉田静山作品展―」

11月23日㈷まで

［休館日：月曜日（祝日は開館）・11月4日、野洲市民は入館無料］

籠に花を活ける［杉田静山・杉田昭子］

まち

オーケストラがやってきた

第1回コミセンしのはら音楽祭が大ホールで開催されました。びわこフィルハーモニーオーケストラの約40人の演奏が始まると開場はその迫力で熱気に包まれ、本物のオーケストラ演奏に皆さんは感動で胸を膨らませていました。

第3部では「しのっ子ジュニアオーケストラ」も一緒に演奏し、子どもたちには大変貴重な経験となりました。

▼10月4日　コミセンしのはら

教育向上に期待

ＪＩＣＡ（独立行政法人国際協力機構）青年海外協力隊の一員として、エチオピアで2年間ボランティア活動される桂武邦さん（小南）が表敬訪問しました。桂さんは、理科の実験や観察能力、指導力を向上させるため、現地の中学教員に対し指導や助言を行います。

未来ある生徒たちの学力が向上することを期待します。

▼9月24日　市役所